



商社九条の会・東京 第61回企画

自民党を斬る



「そこをどけ！」から 「いかにどかさか」へ

東京大学大学院教育学研究科教授
日本学術会議連携会員／日本教育学会会長

講演 **本田由紀さん**

2026年5月29日、国会前で...

自民党とそれにつながる政党の者たちには私たちの命も尊厳も守れない、まして憲法をその汚い手でいじることなど許せない、「そこをどけ！私たちが主権者だ」・本田由紀さんの大デモ参加者を前に語ったスピーチです。胸が震えました。激励されました。

そして今回、幸運にも本田さんをお招きできました。

どうしたら、自民党をどかさことができるか。

縦横に語っていただきます。お誘いあわせてご参加を。

本田由紀さん（ほんだゆきさん）プロフィール

1964年12月24日、徳島県生まれ、香川県育ち。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士(教育学)。日本労働研究機構研究員、東京大学社会科学研究所助教授等を経て、2008年より現職。専門は教育社会学。教育・仕事・家族という3つの社会領域間の関係に関する実証研究を主として行う。特に、教育から仕事への移行をめぐる変化について指摘と発言を積極的に行っている。

著書 『若者と仕事』（東京大学出版会）、『多元化する「能力」と日本社会』（NTT出版、第6回大佛次郎論壇賞奨励賞）、『「家庭教育」の隘路』（勁草書房）、『軋む社会』（河出文庫）、『教育の職業的意義』（ちくま新書）、『学校の「空気」』（岩波書店）、『社会を結びなおす』（岩波ブックレット）、『もじれる社会』（ちくま新書）、『教育は何を評価してきたのか』（岩波新書）、『「日本」ってどんな国？』（ちくまプリマー新書）、『「ニート」って言うな！』（共著、光文社新書）、『労働再審1 転換期の労働と「能力」』（編著、大月書店）、『大卒就職の社会学』（共編著、東京大学出版会）『現代社会論』（編著、有斐閣）、『文系大学教育は仕事の役に立つのか』（編著、ナカニシヤ出版）、『文系大学生は専門分野で何を学ぶのか』（編著、ナカニシヤ出版）、『「東大卒」の研究』（編著、ちくま新書）、『岩波新書で「戦後」をよむ』（共著、岩波新書）、『危機の中の若者たち 教育とキャリアに関する5年間の追跡調査』（共編著、東京大学出版会）、『教育社会学のフロンティア1 学問としての展開と課題』（共編著、岩波書店）、『国家がなぜ家族に干渉するのか—法案・政策の背後にあるもの』（共編著、青弓社）、『教育の社会学』（共編著、放送大学教育振興会）、『進学校の進路選択とジェンダー』（共編著、大月書店）、『自助社会を終わらせる』（宮本太郎編、共著、岩波書店）ほか多数。

2026年

11月1日(日)

14:00~16:30 開場13:30

会場：**日比谷図書文化館B1ホール**
(旧日比谷図書館)

要・予約・もよりの世話人、参加費：1,000円

又はHPへ 生徒・学生：500円

予約なしの場合、入場できないこともございます



★丸の内、日比谷、千代田各線
「霞が関」(B2出口 徒歩3分)
★日比谷、千代田線
「日比谷駅」(A14出口 徒歩7分)
★三田線「内幸町」(A7出口 徒歩3分)
★JR新橋駅：日比谷口(徒歩10分)

主催：商社九条の会・東京 HP: <https://sites.google.com/site/shosha9jho/>